

2012年3月期(第40期) 第2四半期 決算説明会

2011年11月25日(金)

ローランド株式会社

○ ローランド株式会社 社長の田中でございます。日ごろは、弊社にご注目いただき、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

2012年3月期 上半期 連結決算および事業別概要

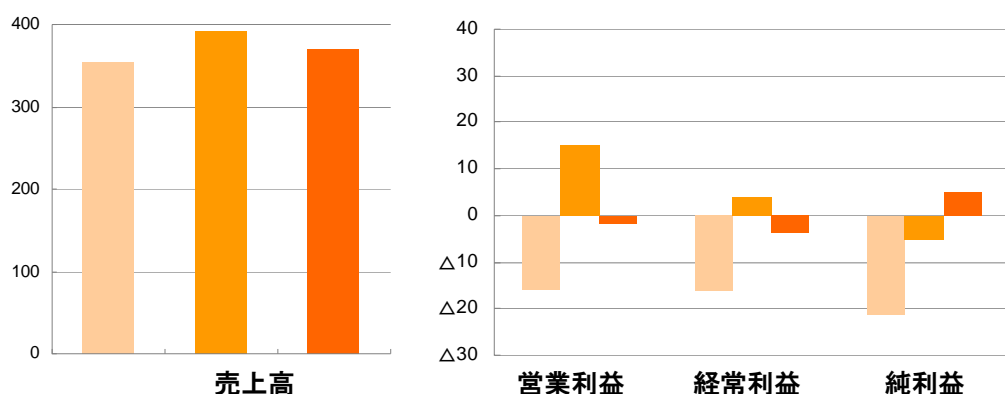
- 2012年3月期上半期の連結決算および事業別概要についてご説明いたします。

連結業績《上半期》



■ '10年3月期 ■ '11年3月期 ■ '12年3月期

(金額単位:億円)



上半期比較	'10年3月期	'11年3月期	'12年3月期	対前年同期比	
				増減	増減率
売上高	354	392	369	△22	△6%
営業利益	△15	14	△1	△16	—
経常利益	△16	4	△3	△7	—
四半期純利益	△21	△5	5	+10	—

○ 上半期の売上高は、前年同期比6%ダウンの369億円、大変遺憾ながら、営業損益は、前年同期比16億円減の1億円の営業損失、経常利益は、7億円減の3億円の経常損失となりました。

○ 最終ネット利益は5億円の純利益となりましたが、これは連結子会社ローランドエスジー株式会社を吸収合併したことなどに伴う繰延税金資産の計上によります。

事業セグメント



電子楽器事業



ローランド株式会社



コンピュータ周辺機器事業

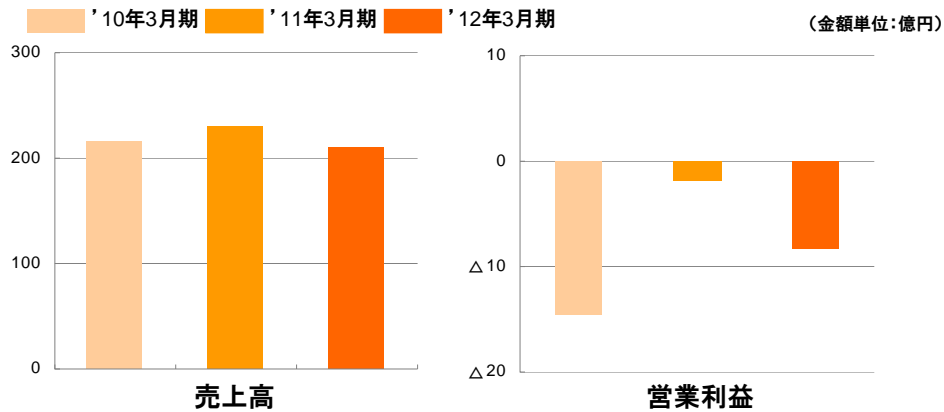


ローランド ディー.ジー.株式会社



- 次に、事業別に売上高および営業利益についてご説明します。
- ローランドの連結決算は、電子楽器事業と、ローランドDGが展開する業務用大型カラープリンターを中心としたコンピュータ周辺機器事業のふたつの事業で構成されています。

電子楽器事業《上半期》

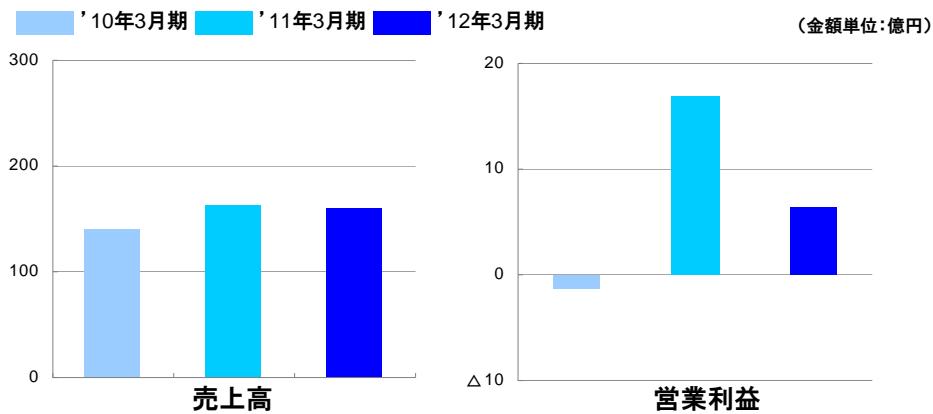


上半期比較	'10年3月期	'11年3月期	'12年3月期	対前年同期比	
				増減	増減率
売上高	215	229	209	△20	△9%
営業利益	△14	△1	△8	△6	—

- ・日米欧にてシンセや電子ドラムの高価格帯商品が不振。電子ピアノが伸び悩み。
- ・新興国で普及価格帯商品が伸張するも売上規模小さく主要市場の減収を補えず。

- 電子楽器事業では、売上高は前年同期比9%ダウンの209億円。この減収により、営業利益は、前年同期比6億円減の8億円の営業損失となりました。
- 円高の影響に加え、日本、北米、欧州の主要市場で、シンセサイザーや電子ドラムなどが、高価格帯製品を中心に販売が減少するとともに、前期まで好調だった電子ピアノの販売が伸び悩みました。
- ブラジルや中国などの新興国では、シンセサイザーや電子ドラムの普及価格帯モデルや、アンプやエフェクターといったギター関連製品が好調に推移しました。結果、ブラジルは24%アップ、中国は63%アップと順調な成長となりましたが、売上規模はまだまだ小さく、主要市場の減収を補うまでには至りませんでした。

コンピュータ周辺機器事業《上半期》



上半期比較	'10年3月期	'11年3月期	'12年3月期	対前年同期比	
				増減	増減率
売上高	139	162	160	△2	△2%
営業利益	△1	16	6	△10	△62%

- ・プリンターは欧州設備投資意欲の減退やアジア成長鈍化で主力商品の販売が減少。
- ・工作機械はデンタル市場向け製品が好調。インク等サプライ品の販売も堅調。

○ コンピュータ周辺機器事業では、売上高は2%ダウンの160億円。営業利益は、生産量減少で原価率が悪化し、前年同期比10億円減の6億円となりました。

○ プリンターは、欧州の設備投資意欲の減退やアジアの成長鈍化を受け、主力製品の販売が減少し、前年同期比12%ダウンとなりました。工作機械はデンタル市場向け製品の販売が本格化し18%アップ、インクなどのサプライ品は4%アップとなりました。

2012年3月期 通期業績予想

- 続きまして2012年3月期の通期の予想について、ご説明します。

通期業績予想《電子楽器事業》



(金額単位:億円)

	上半期			下半期			通期			
	期初 予想	実績	差異	期初 予想	今回 予想	差異	期初 予想	今回 予想	差異	差異率
売上高	220	209	△10	240	222	△17	460	432	△28	△6%
営業利益	△18	△8	+9	0	0	+0	△18	△8	+10	-

減収影響 ▲7
経費削減 +8
震災影響 +5
その他 +2

- 下半期は、期初予想より減収も、上半期からは新製品等により増収を維持
- 営業利益は、上半期の経費水準を維持することで、ブレイクイーブンの期初予想を維持

○ 電子楽器事業では、ブラジルや中国などの新興市場で好調に推移するものの、主要市場である日本および欧米諸国における民間需要の回復が、当初予想発表時に比べて鈍く、売上高は6月10日に発表しました期初予想から、6%ダウンの432億円で修正いたしました。

○ 一方、営業損失は期初予想の18億円から8億円に修正しました。これは上半期の営業損失が縮小したことによります。

○ 上半期は、減収影響はあったものの、製造原価や販管費の削減に努めました。また震災影響が軽減されたこともあります。半導体メーカーをはじめとするサプライヤーの方々の早期復旧により、工場稼働率が予想よりも改善いたしました。

○ 下半期は期初予想より減収するものの、新製品を中心に販売拡大を見込んでおり、上半期に削減した経費水準を維持することで、期初予想通り、ブレイクイーブンを目指します。

通期業績予想《コンピュータ周辺機器事業》



(金額単位:億円)

	上半期			下半期			通期			
	期初 予想	実績	差異	期初 予想	今回 予想	差異	期初 予想	今回 予想	差異	差異率
売上高	160	160	+0	180	180	+0	340	341	+1	+0%
営業利益	4	6	+2	18	15	△2	22	22	+0	-

- 売上高は上半期はほぼ予想通り
- 営業利益は上半期、若干の上ぶれがあったものの、経済の先行きが不透明な中、期初の予想を据え置き

○ コンピュータ周辺機器事業では、ほぼ期初の予想どおり、売上高は341億円、営業利益は 22億円を予想しています。

通期業績予想《連結》



(金額単位:億円)

	上半期			下半期			通期			
	期初 予想	実績	差異	期初 予想	今回 予想	差異	期初 予想	今回 予想	差異	差異率
売上高	380	369	△10	420	403	△16	800	773	△27	△3%
営業利益	△14	△1	+12	18	15	△2	4	14	+10	+250%
経常利益	△15	△3	+11	14	10	△3	△1	7	+8	—
当期純利益	△4	5	+9	△1	△1	+0	△5	4	+9	—

経常利益 : 営業利益上ぶれ+為替差損等の営業外費用2億円増

- 結果、連結では、売上高は、期初予想に対して**3%ダウン**の**773**億円。営業利益は、期初予想の**4**億円から**10**億円アップの**14**億円。経常利益は**1**億円の赤字予想から**7**億円の黒字に修正いたしました。
- 営業利益**10**億円アップに対して、為替差損の増加により、経常利益では**8**億円アップとなります。また最終利益は**5**億円の赤字予想から**9**億円アップの**4**億円とし、前期**6**億円の純損失から黒字転換を予想しています。
- 尚、タイの洪水による影響は、トランジスタなどを中心とした、部品調達面であらわれてきています。随時、代替部品の手配など、必要な対応をおこない、業績への影響を最小限にとどめるよう、努力しております。
- 当期は連結で黒字転換する見通しですが、これは主にコンピュータ周辺機器事業の業績に支えられています。電子楽器事業では、下期ブレーク・イーブンを必達し、来期の黒字化につなげていきます。

今後の電子楽器事業について

○ それでは、今後の電子楽器事業について、具体的な展開を製品グループ別にご説明いたします。



- 現在のローランドの電子楽器事業のコア・ビジネスは、
- ピアノ、オルガン、シンセサイザー、アコーディオンなどの「鍵盤楽器」
 - 電子ドラムやパーカッションなどの「打楽器」
 - エフェクターやギターシンセ、アンプなどの「ギター関連機器」
 - そして楽器の演奏を記録する「レコーダー」です。
- これらは楽器の基本であり、この事業領域にフォーカスして、それぞれ着実に伸ばして行くことが我々の基本ポリシーです。

ROLAND PIANO
DIGITAL
ローランドピアノ・デジタル



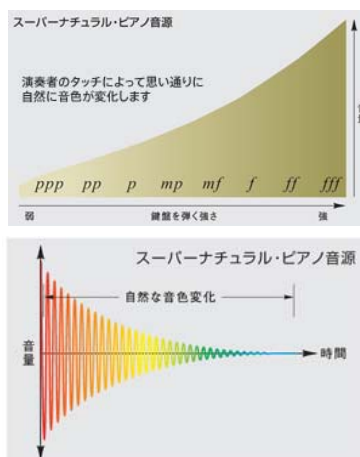
- まずは鍵盤楽器の中核となる電子ピアノについてご説明します。

V-Piano
GRAND



- ローランドピアノ・デジタルのフラッグシップモデルV-Piano Grandのコンサート「V-Piano Grand World Premiere」を世界各地で開催しています。
- V-Piano Grandは、アコースティック・ピアノの発音原理をデジタル技術で再現し、さらに電子楽器ならではの、新たなピアノ音もつくりだす、画期的な音源技術を搭載しています。この技術によって、より豊かなピアノの音色と高い表現力を実現し、世界中のピアニストから高い評価をいただいています。

SuperNATURAL Piano



○ そしてこの「V-Piano音源」を元に、よりコンシューマー層をターゲットにして開発されたのが「スーパーナチュラル・ピアノ音源」です。タッチの強弱に応じて無段階に変化する音色、自然に変化して消える減衰音など、アコースティック・ピアノ同様の表現力を持っております。

SuperNATURAL Piano



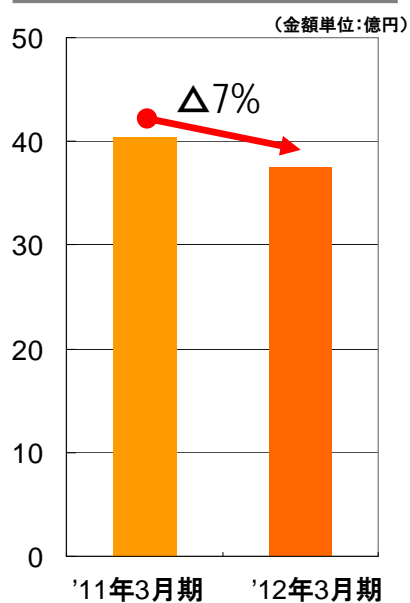
○ この「スーパーナチュラル・ピアノ音源」を搭載した現行ラインナップは、店頭でも高い評価をいただき、発売以来、順調なセールスを記録してまいりました。



**SuperNATURAL
Piano**



電子ピアノ上半期実績推移



○ しかしながら今期は、デビューから約2年が経過したこともあり、売上は7%ダウンとなっております。

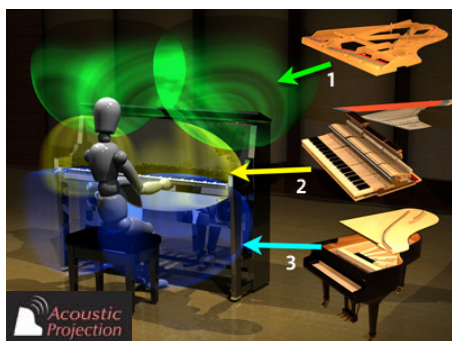


○ そこで下期は、新製品の投入によって新たな顧客層の獲得を図ります。その第一弾がLX-15です。



SuperNATURAL Piano

PHAⅢアイボリー・フィール鍵盤



アコースティック・プロジェクション

3セットのステレオ・スピーカーで
自然で立体的な音場を再現

1. スペーシャル・スピーカー
2. ニアフィールド・スピーカー
3. キャビネット・スピーカー

○ LX-15は、一般的なご家庭で馴染み深い、アップライトピアノ型のキャビネットに、「スーパーナチュラル・ピアノ音源」と最新の鍵盤を搭載したモデルです。

○ 加えて新開発の「アコースティック・プロジェクション」により、スピーカーの存在を感じさせない、自然で立体的な音場を再現しております。



音楽のあふれる毎日がいつまでも続くように。
限りあるエネルギー資源を有効活用するために、
ローランドは様々な技術開発に取り組んでいます

最大消費電力40%削減(従来モデル比)

「オート・オフ機能」の装備(自動電源OFF)

○ また、お客様の環境に対する関心の高まりにも配慮しました。現在ローランドが推進する「Energy Saving Technology」により、従来モデルに比べ最大消費電力を40%削減し、加えて演奏を終えて一定時間経つと自動で電源が切れる「オート・オフ機能」も備えました。



アップライトピアノ市場への対応

○ ピアノとしての高い基本性能と高級感あるデザインを兼ね備えることにより、従来アップライトピアノを購入されていたお客様のニーズにも十分おこたえできるモデルとなっております。



F-120 (サテンブラック/ホワイト)



RP301 (ローズウッド)

お客様のライフスタイルに合わせて選択できるラインナップ

- また、LX-15だけでなく、エントリーモデルの新製品にも、初めて「スーパーナチュラル・ピアノ音源」と、上位モデル同等の鍵盤を搭載しております。デザイン等の違いにより、お客様のライフスタイルに合わせたご購入が可能です。
- このように電子ピアノでは、新たな製品ラインナップを投入し、売上の確保を図ってまいります。

ショップ・イン・ショップ展開



○ 流通施策も一層強化いたします。これはショップ・イン・ショップの展開が中心になります。販売店様との提携により、店舗内にローランド専門の販売スペースを設置するショップ・イン・ショップでは、充実した商品展示と専任販売員の接客により、商品の魅力を直接お客様にお伝えします。

 Roland Foresta
ローランド・フォレスタ



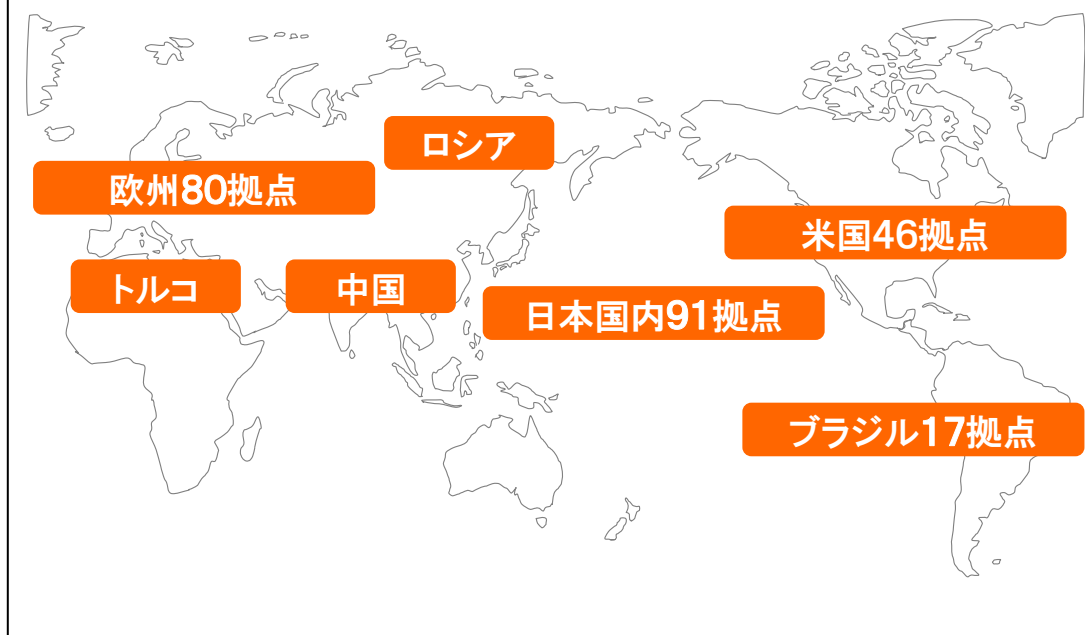
○ 電子ピアノは、Forestaの名称でショップ・イン・ショップを展開しており、当社ピアノの魅力をお客様に十分ご理解いただくための重要な拠点となっております。

電子ピアノ《ショップ・イン・ショップ》

Roland



Foresta展開拠点



○ 現在国内ではショップ・イン・ショップとして138拠点、そのうち91拠点がForestaとなっております。

○ また世界各国にも展開を広げ、ヨーロッパでは80拠点、アメリカでは46拠点、ブラジルでは17拠点が既に開設され、そのほか、中国、ロシア、トルコなどでも、順次導入が始まっております。

中国への対応

現地向けピアノ



MPI-6



MP-80/90

音楽教室



<上海 直営スクール>



<北京直営スクール>

- さらに、グローバル展開ではローカライズも重要な施策です。特に市場の伸張著しい中国では、内蔵曲も含め、地域事情に即した電子ピアノを現地生産で供給しております。
- 上海、北京では直営の音楽教室を開設し、販売強化につなげております。



コア・テクノロジー

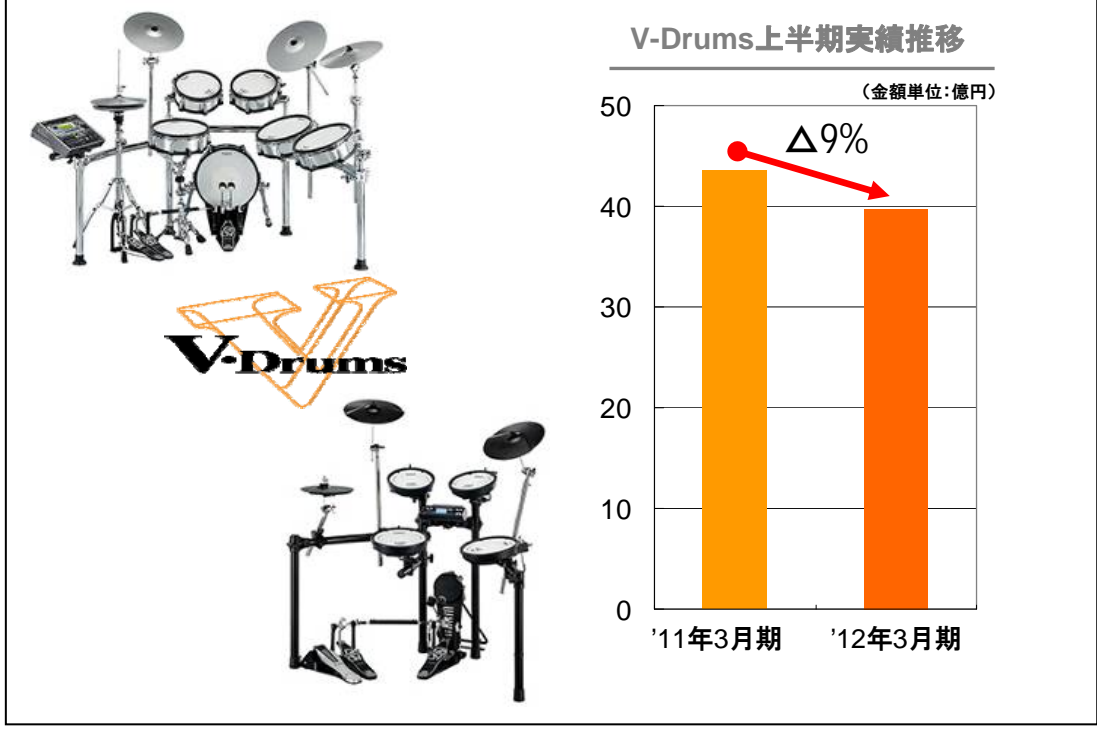
COSM

メッシュヘッド



- 次に「打楽器」の中心となる電子ドラムです。
- 電子ドラムのコア・テクノロジーは、独自のモデリング技術**COSM**とメッシュヘッドです。この技術により、当社の**V-Drums**は、長期に渡って高いシェアと売上を確保してきました。

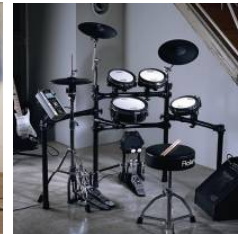
電子ドラム



○ しかしながら今期の売上は、長引く不況により、特に欧米において高価格帯モデルの販売が伸び悩み、9%のダウンとなっております。



新規製品開発による市場活性化



○ そこで下期に向けては、独自のデジタル信号処理チップやセンサ技術を駆使し、楽器としての表現力を更に高めたフラグシップモデルや、普及価格帯の製品を開発し、早期の売上回復と市場の活性化を目指してまいります。



V-Drumsワールド・チャンピオンシップ

- また製品開発だけでなく、普及活動にも積極的に取り組んでおります。その一つがコンテストです。
- V-Drumsは、「V-Drums World Championship」という名称で、世界規模のコンテストを行っております。

電子ドラム 《コンテスト》

Roland



○ 各国のコンテスト優勝者は、来年1月にロサンゼルスで行われる世界大会にご出場いただけます。

ローランド・ラルゴ



日本国内
17拠点



○ さらに流通施策として日本では、販売店様店頭でのV-Drums体験コーナー「Roland Largo」を17拠点で展開しており、通常は楽器店のドラムコーナーに足を運ぶことのないファミリー層の取り込みに成功しております。

国内音楽教室



中国音楽教室



○ 音楽教室も重要な施策の一つです。日本では現場のニーズに応じてV-Drums独自のコース開発を進め、また中国では現在約5000人の生徒がV-Drums教室に通い、売上拡大につながっております。

V-Drumsフレンド・ジャム



139カ国12,000人以上が利用

- さらに、WEB上では、世界中のV-Drumsユーザーと交流しながら、自分の演奏ランクを確認できる「V-Drums Friend Jam」を開設しています。
- ドラム演奏の楽しさを訴求することで、顧客拡大に努めており、現在までの利用者は139カ国12,000人以上にのぼり、世界各国から毎日100名以上の方が利用しておられます。
- このようなWEBを活用したユーザーサポートは、V-Drums以外の楽器でも展開可能であり、今後拡充を図る予定です。

ギター関連電子楽器

Roland

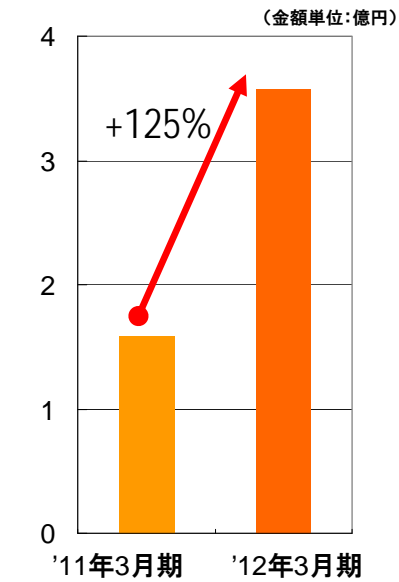


○ 次に「ギター関連電子楽器」です。この分野では、上期はギター・シンセサイザーが非常に好調な動きを示しました。



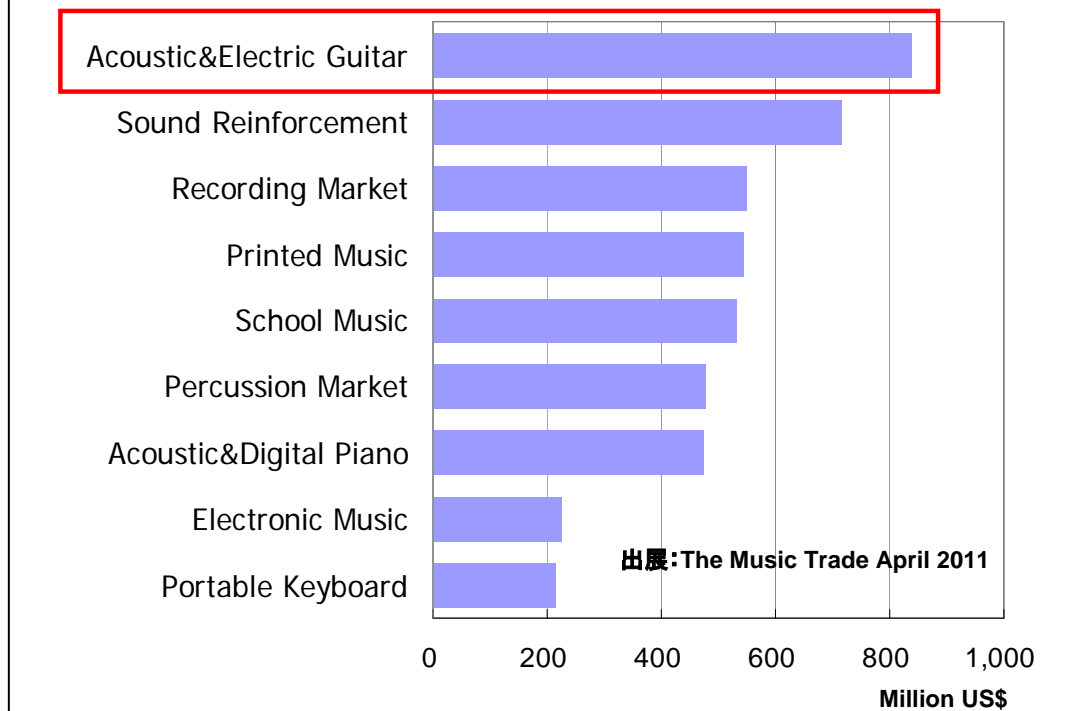
GUITAR SYNTHSIZER
GR-55

ギターシンセサイザー 上半期実績推移



○ 新製品GR-55は、従来のギター・シンセサイザーとCOSMによるギター・モデリングを融合し、ギタリストが欲しいサウンドを自由に作り出せる製品です。前年同期比125%アップと、大きく伸張しました。

アメリカ楽器市場規模(2010年)



○ ギター市場は、アコースティックからエレキ・ギターへと進化しながら拡大してきました。楽器市場全体の中でもギターの占める割合は非常に大きく、この分野に対してローランドは、これまで独自の形で取り組んできました。

 **BOSS**

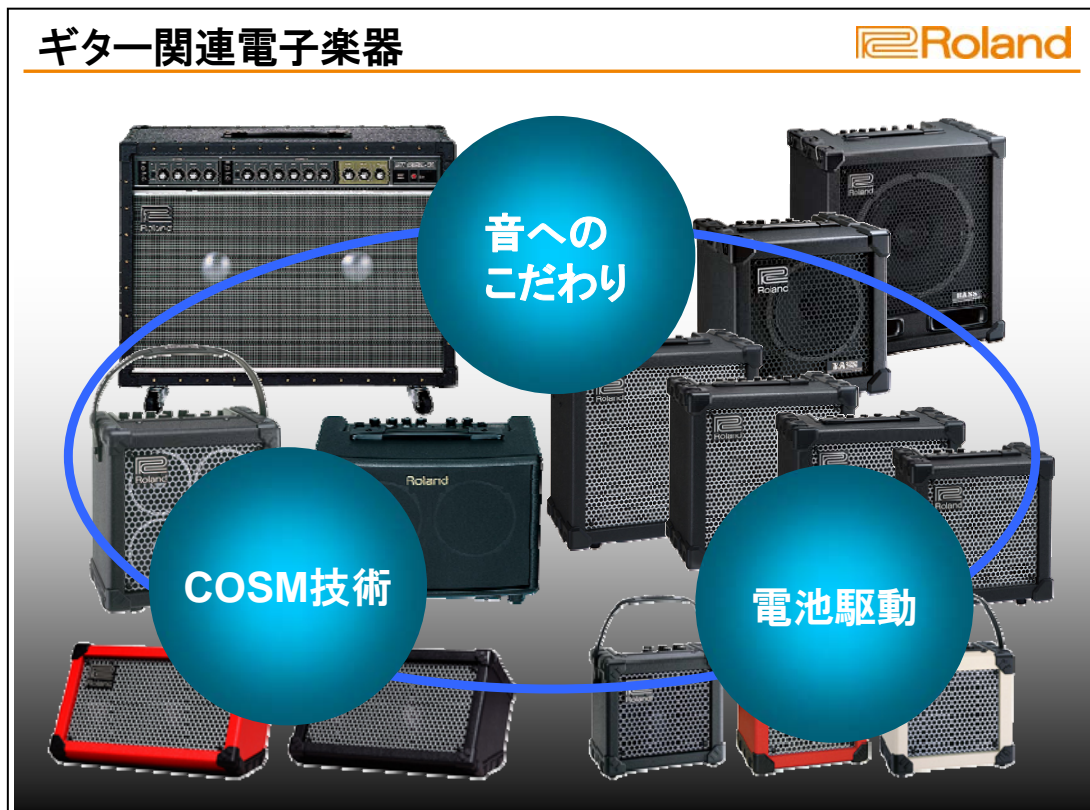
コンパクト・エフェクター・シリーズ

 **GOOD
DESIGN**



○ BOSSブランドで展開するコンパクト・エフェクターは、ギターの音色作りに欠かせない定番アイテムです。35年にわたりトップ・シェアを維持し、ラインナップの拡大と共にビジネスとして大きく成長しました。

○ おかげさまで今年は「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」をいただくこともできました。



○ ギター・アンプでは、音へのこだわりはもちろん、最新のモデリング技術COSMや電池駆動などにより、他社製品との差別化に成功しております。

History



○ さらに新しい展開にも取り組んでいます。ローランドは、1977年に世界初のギター・シンセサイザーを発売しました。それ以来、独自の技術によって様々なギターに新たな付加価値を加える挑戦を続けています。

ギター関連電子楽器

Roland



○ そして現在では、ギター・シンセサイザーやギター・モデリングの技術を当社独自の半導体チップに搭載し、ギターメーカー様との提携により、ギター本体へ組み込むことで、新たな市場の創出を図っています。



- ローランドのデジタル技術と、ギター作りの技術が互いに結びつくことで、先駆的なものと、伝統的なものがバランスよく融合し、アコースティックからエレキへと進化してきたギターを、さらにエレクトロニクス・ギターへと発展させていけると考えております。
- 来年度は、この取組みをさらにステップ・アップさせ、製品開発だけではなく、包括的な形で提携ビジネスを展開させていく予定です。



○ さて、これら電子楽器のコア・ビジネスに加え、今後新たな成長分野として取り組んでいるのが業務用の音響・映像機器とメディア・プロダクションの分野です。中でも現在特に注目を浴びているのが映像関連機器です。

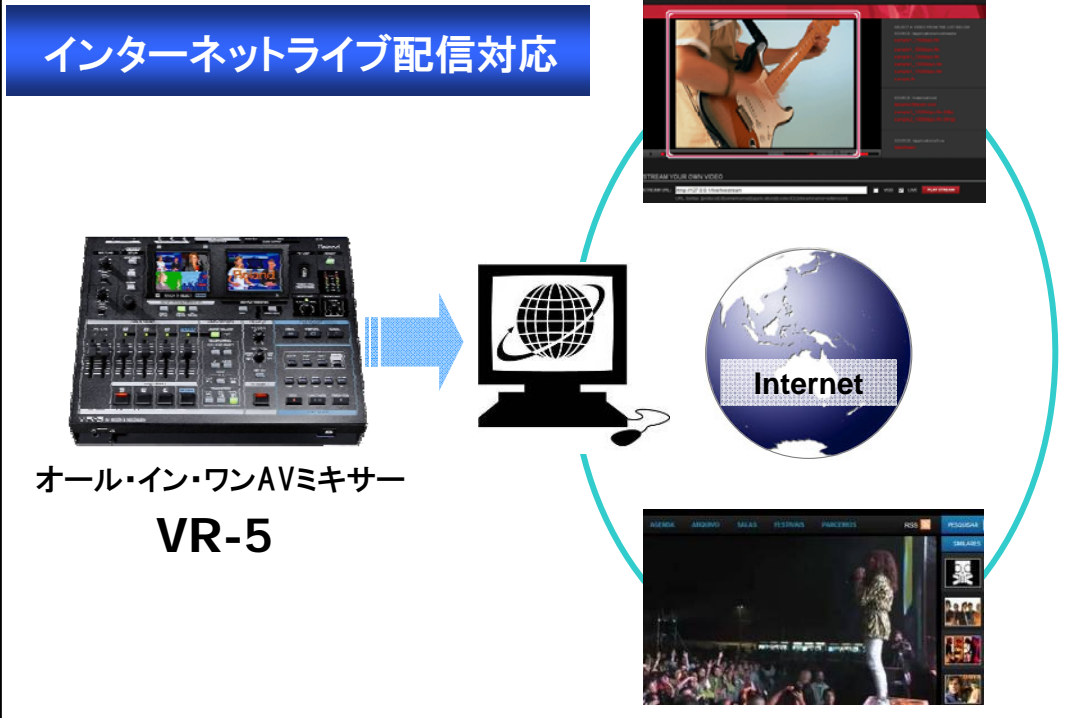


- 「YouTube」に代表される動画共有サービスや、「Ustream」、「ニコニコ生放送」、「Stickam JAPAN!」などのライブ配信が浸透し、大きな役割を担うようになってきました。
- 現在これらの動きは、「企業内の情報共有」や「e-Learning」などのビジネス・ユースへも拡がりを見せており、今後ますます発展すると考えられます。
- このような中、ローランドは、映像機器分野におけるムービーコンテンツの制作ツールを積極的に投入し、市場の活性化を図ります。



オール・イン・ワンAVミキサー VR-5

○ その一つが1月に発売された「VR-5」です。こちらは映像と音声を1台でコントロールできるインターネット対応のAVミキサーです。



○ インターネット・ライブ配信に必要な機能を1台に集約し、ワンマン・オペレーションで映像演出、録画、配信を行うことが可能なVR-5は、発売以来、大きな反響をいただいております。

AVミキサー VR-3



世界最小・最軽量
インターネット対応



○ また先週、幕張メッセで開催された国際放送機器展 InterBEEでは、世界最小・最軽量のインターネット対応AVミキサーVR-3を発表しました。これはVR-5の普及モデルにあたり、大きな反響を呼んでおります。

手軽に行えるインターネット放送

AVミキサー VR-3



○ 12月発売を予定しており、インターネット放送が、個人で、より手軽に行えるVR-3により、ライブ配信市場における顧客層の拡大を狙います。

PHOTO / VIDEO MOVIE EDITOR

VIDEO Canvas

DV-7G



○ また先月、パソコン・ベースのメディア制作ツールとして発売したのが「ビデオ・キャンバス DV-7G」です。

必要なツールをワンパッケージで提供

ソフトウェア



+

ハードウェア



+

音楽/映像素材



*VIDEO*Canvas DV-7G

○ ムービー制作に必要なソフトウェアとハードウェア、そして、豊富な著作権フリー素材をワン・パッケージにしたこの「ビデオ・キャンバス」は、ビデオ制作をより身近にする「新たなクリエイティブ・ツール」です。

ビデオ作品



ミュージック
ビデオ



デジタル
サイネージ



教材
レポート



VIDEO Canvas DV-7G

- ビデオ作品はもちろん、バンドのプロモーションビデオ、デジタルサイネージ、教材、レポート、インタビューやイベントのダイジェストなど、幅広い用途に対応しております。
- このビデオ・キャンバスも先月の発売以来、好調な売れ行きを示しており、パソコン・ベースの映像制作という、新しい市場の確立に向け、今後も注力してまいります。



○ このようにローランドでは、基本のコア・ビジネスに軸足を置きながら、そこで培った技術資産を活用し、業務用音響・映像機器とメディア・プロダクションの分野を開拓し、新たな成長を目指しています。

満足を超えた「驚き」や「感動」の創造

コトづくり

モノづくり

楽器としての完成度の追求

○ これまでご説明させていただきました通り、当社の電子楽器事業は、製品開発である「モノづくり」とその製品を使ってお客様に音楽の楽しみを伝える「コトづくり」を両輪として展開しております。

配当金



- ◇ 中間配当は、期初の予想通り1株当たり10円
- ◇ 期末配当金は1株当たり10円、中間配当金とあわせて年間の配当金は1株当たり20円を予想。

<配当推移>

		2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期 予想
1株当たり 当期純利益	連結	△ 83円99銭	△ 29円21銭	16円82銭
	単体	△ 4円75銭	△ 4円61銭	△ 12円57銭
1株当たり年間配当金		20円00銭	25円00銭	20円00銭
配当性向	連結	—	—	118.9%
	単体	—	—	—

- 配当金についてご説明します。中間配当金につきましては、通期の業績予想と配当方針に基づき、年間での配当金を予想した上で、勘案しております。
- ご説明させていただきましたとおり、通期の業績予想では、当期純利益は黒字化となるものの、遺憾ながら、電子楽器事業は引続き営業赤字を継続する見通しです。
- そのため中間配当金は期初の予想通り1株当たり10円とさせていただきました。また期末配当も1株当たり10円、年間配当予想も1株当たり20円と、期初の予想通りとしています。

Better Life with Music

暮らしの中にもっと音楽を。
ローランドは、楽器を演奏する楽しみ、より多くの喜びをご提案しています。

- 以上、2012年3月度上半期の業績および通期の予想についてご説明させていただきました。
- 現在楽器市場は、厳しい環境下にあります。現在当社では「**Better Life with Music**」という経営ビジョンを掲げ、全社が一丸となり、業績向上に向け取り組んでおります。



- 引き続きご支援賜りたく、お願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。